



# 農林水産だより



No.34

発行 令和4年3月

発行/編集 杵岐振興局 農林水産部

杵岐市芦辺町国分東触678-7 TEL:0920-45-3038 FAX:0920-45-3045

## 「ながさき農林水産業大賞」で杵岐から4件が受賞！



左端より中村県知事(当時)、水産受賞者(郷ノ浦町漁協自営定置、杵岐東部漁協一本釣りさわら「極」部会)



振興局本村部長(左端)と農林受賞者(山本氏、ゆず生産組合長嶋氏、JA杵岐市坂本常務(右端))

### 杵岐の将来に向けて

私事ながら、本年をもって60歳になります。60年前の1960年代には5万人の方が杵岐に住んでいました。

米も価格は高かったし、魚やイカ、ウニなどの採介類も多く採れていたことでしょう。

この頃、私の一族は漁業に従事し、祖父や父は尖閣海域・東シナ海・黄海で魚やエビを獲っておりました。エビが多く獲れると給料袋の聖徳太子を数え、びっくりしながらも「獲れなくなったらどうしよう」と子供ながらに不安になったことを思い出します。

時代は変わり、1980年代になると燃油の高騰や漁獲量の減少などにより遠洋漁業は衰退し、父は貨物船に乗り換え、私の学費を捻出しました。

現在の杵岐の人口は60年前の半分の2万5千人まで減少し、20年後には1万8千人まで減少するとの予測が出ています。

杵岐の将来を担うのは、島外から外貨を稼ぐことのできる農業と漁業がその主役と言えます。

今年度JA杵岐市は「第9次営農振興計画」を作成し「10年で販売額100億円、若者が生き生きと豊かな生活を営むことができる魅力ある農業の実現」を目指すこととしました。(※4頁に関連記事)

また、漁業においては地球温暖化対策、定置網や養殖の導入、杵岐産魚のブランド力の向上など、漁業で暮らす人たちの持続的な生活の安定を目指しています。杵岐の経済を支える重要な産業基盤である農業・漁業の担い手の生活の安定こそが賑やかな杵岐を創っていく原動力になるのだと思います。

そのためには、次代を担う若い方々が活発に議論し高い目標を持つことができる環境づくりが大変重要だと感じています。皆様と一緒に、この環境づくりを強力に前に進めて行きたいと思う次第です。



杵岐振興局 農林水産部  
部長 本村 高一